生物多様性 速報

COP10 AICHI-NAGOYA 国連生物多様性条約第10回締約国会議

「COP（Conference of the Parties）」とは、国際条約を結んだ国が集まる会議（締約国会議）のことです。多様な生き物や生息環境を守り、その恵みを将来にわたって利用するために結ばれた生物多様性条約において、10回目の締約国会議「COP10」が2010年10月、愛知・名古屋で開催。

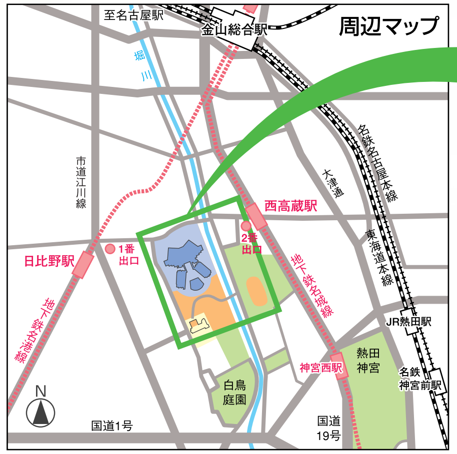
2010年10月11日(月)－29日(金)

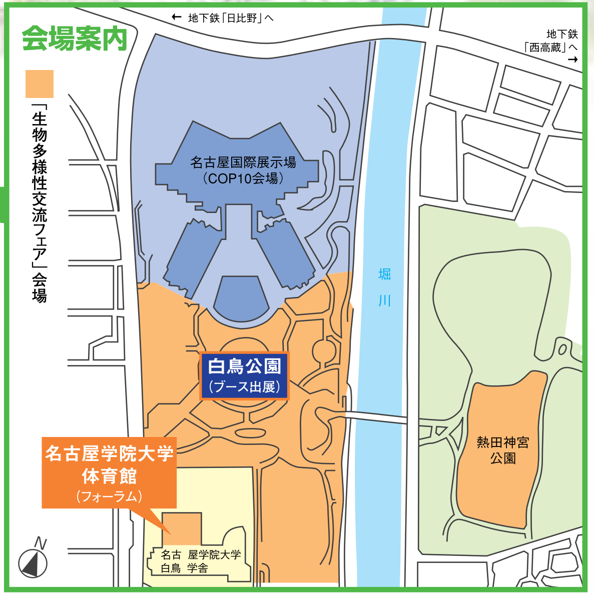
三重大学
人文学部文化学科・教授
三重大学学長補佐
（環境ISO担当）
朴　恵淑
Park, Hye-Sook

生物多様性条約は、1992年のリオの地球サミットで採択された地球環境を守るための条約の一つです。2010年は国際生物多様性年であり、愛知・名古屋において開催されるCOP10では、生物多様性の損失速度を顕著に減少させる2010年目標を検証し、2011年以降の行動計画（名古屋目標）を採択する、また、遺伝資源の利用から生ずる利益を公正かつ衡平に配分する約束（名古屋議定書）を決めることが期待される、大変重要な国際環境会議となります。

「三重大学ブース設置」

日程：2010年10月11日(月)－29日(金)
会場：白鳥公園





「アジア・太平洋大学環境コンソーシアム」～国際環境教育フォーラム～

日程：2010年10月18日(月)　会場：名古屋学院大学体育館

生物多様性国際ユース会議in愛知2010（2010.8.27）

アハメッド・ジョグラフ 生物多様性条約事務局長

「COP10 in 三重」～アジア・太平洋子ども&ユース生物多様性伊勢湾環境会議～

日程：2010年10月14日(木)－17日(日)
会場：勢水丸・亀山里山公園・三重大学講堂

伊勢湾を中心に陸と海洋の環境を通じて豊富な生物多様性を考えられる利点を活かして、生物多様性や国際環境協力の大切さを実体験。

- 三重大学附属練習船「勢水丸」から学ぶ伊勢湾洋上環境学習
- 亀山の里山公園での自然と触れ合う里山学習
- 関宿での環境文化体験
- シャープ株式会社見学
- 鳥羽水族館、御木本真珠島、海の博物館見学
- COP10会場見学

アジア・太平洋大学環境コンソーシアム1周年記念 国際環境教育シンポジウム
文部科学省補助金事業（教育GP）
「三重大ブランドの環境人材養成プログラム」
2010年10月16日(土)
三重大学講堂

附属練習船「勢水丸」

亀山里山公園

三重大学講堂（三翠ホール）

三重大学は「世界一の環境先進大学」を目指し、三重に根ざし、世界に通用する環境人財の育成に力点をおいています。

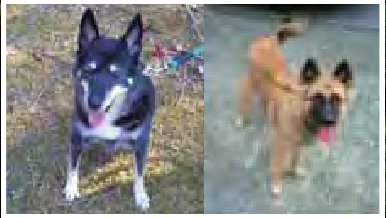
三重大学長
内田 淳正
Uchida, Atsumasa

三重大学理事・副学長
（企画・環境担当）
後藤 正和
Goto, Masakazu

生物多様性

地球上にある、森、里、川、海などの様々な生態系には、
3,000万種を超すとも言われている多様な生き物が存在しています。
また、私たち人間を含め生き物は同じ種であっても多様な個性を持ち、
お互いにつながりあって生きています。

遺伝子の多様性



同じ種の中でも、遺伝子の違いによって、姿形や行動などの特徴が異なること。

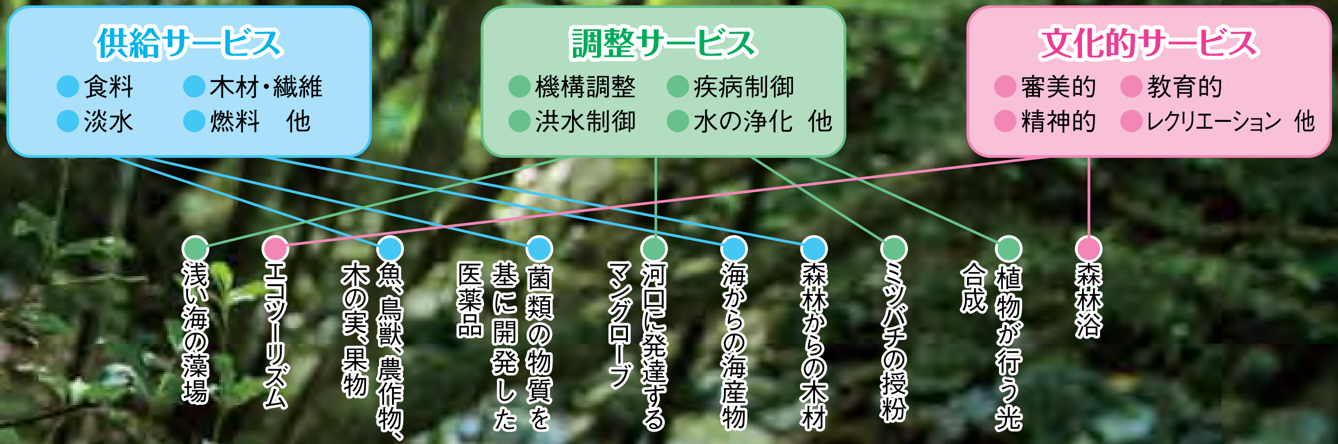
生態系の多様性

干潟、サンゴ礁、森林など、様々なタイプの自然があり、様々な生態系があること。

種の多様性

気候、標高、土壌などの様々な環境に適応して、様々な生物種が生息していること。

人間のみならず、様々な生き物は、
自然の恵み（生態系サービス）に支えられ生きています。



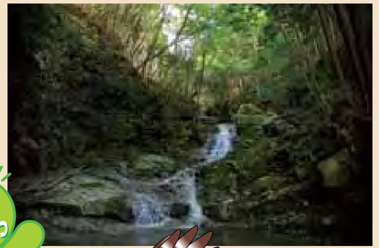
山から海へ

身近な環境での生物多様性について生物資源学研究科の研究や取り組みの一部を少し紹介しま〜す。

附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設演習林
松村 直人 演習林長(兼)・教授
Matsumura, Naoto
[URL]
http://hirakura.bio.mie-u.ac.jp/

森林資源保全の調査・実習

演習林(面積約460ha)の約60%は、天然生林で、常緑広葉樹(ヤブツバキ・ウラジロガシなど)や針葉樹(モミ・ツガなど)と落葉広葉樹(ケヤキ・トチノキ・ミズナラ・ヒメシャラ・ミズメ・ブナ・カエデ類など)が混交する紀伊半島北部の代表的な森林植生です。水源涵養、景観維持、植物遺伝子資源の保存、野生動物の保護などのためにも重要な森林生態系で、原則として伐採が禁じられています。



クマタカ、コノハズク、オオダイガハラサンショウウオ、ヤマネ、ニホンカモシカなど天然記念物を含む分布の上から重要な動物が確認されています。

資源循環学専攻
循環社会システム学講座
循環経営社会学
波多野 豪 教授
Hatano, Takeshi
[URL]
http://www.bio.mie-u.ac.jp/junkan/shakai/

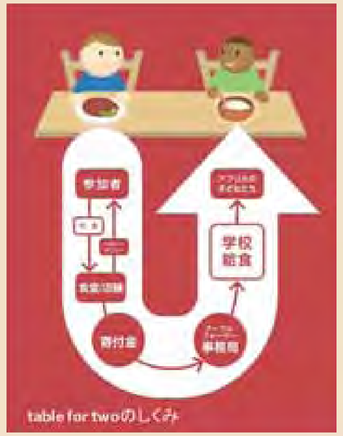
生き物を守る農業を支える

農家は、作物を病害虫や雑草から守り、かつ、コストを下げて食料を供給するために農薬や化学肥料を使ってきました。しかし、その結果、田んぼや畑の回りからはトキやコウノトリだけでなく、赤とんぼ、イナゴ、カエル、タニシ、タガメ、ドジョウなどが姿を消しつつあります。こうした生き物を守るには、消費者が環境にやさしい農産物を買って、地域の農業を支えることが必要です。

資源循環学専攻
循環社会システム学講座
地域環境管理学
髙山 進 教授
Takayama, Susumu
[URL]
http://mie.isewan.nikita.jp/?cid=44938

生き物と共存できるしくみ

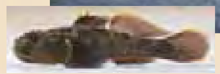
私たちの社会は過去200年ほど生き物に配慮のない経済を営み、同時に生き物と折り合って暮らしてきた地域の文化もこわしてきました。しかし私たち人間は「生き物たちの恵みに支えられて生きている」という事実に気づけば、「奪い合う」から「分かち合う」しくみを作れるはずです。日本発のしくみであるtable for twoは、昼食を選んで食べることで1食につき20円分の「分かち合い」ができるプログラムです。



生物圏生命科学専攻
水圏生物生産学講座
魚類増殖学
淀 太我 准教授
Yodo, Taiga
[URL]
http://www.bio.mie-u.ac.jp/seimei/suiken/gyozo/index.html

考えてみよう放流

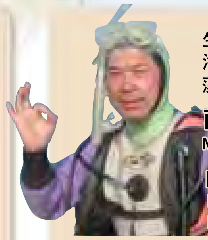
多くの淡水魚が乱獲や自然破壊、外来生物の影響で危機に瀕しています。また、川や湖の魚は自由に他の水域と交流できないので、同じ種でも水域ごとに少しずつ違う遺伝的性質を持っています。川や湖で、漁業法で「捕ったら増やす」義務が漁業者に課せられており、これまではよそから持ってきた魚や人工的に増やした魚を放流することで増やしてきました。その結果、よかれと思って行った放流のせいで、本来生息するはずのない種類の魚が増えたり、同種でも遺伝的に異なる魚が侵入し、生物多様性の損失に輪をかけてしまっています。外来魚の管理手法や放流によらない増殖方法を開発し、淡水域の生物多様性を回復・維持しながら利用する方法を考えています。



生物圏生命科学専攻
海洋生物科学講座
海洋生態学
木村 妙子 准教授
Kimura, Taeko
[URL]
http://www.bio.mie-u.ac.jp/seimei/kaiyo/seitai/saito/Welcome.html

干潟の多様な生き物を調べる

潮の満ち引きによって現れる砂や泥の地面(干潟)には、海や川から運ばれてきた有機物などがたまりやすく、それを餌にカニや貝やゴカイなどのベントス(底生生物)が住んでいます。また、干潟の周辺(ヨシ原や護岸壁)にも生物が数多く生息しています。これらの生態を明らかにし、保全するために、何をするかを考えています。



生物圏生命科学専攻
海洋生物科学講座
藻類学
前川 行幸 教授
Maegawa, Miyuki
[URL]
http://soruipc2.bio.mie-u.ac.jp/index.html

伊勢湾の危機をアマモが再生

大型海藻が群落を形成している「藻場」は、多くの機能を持ち海洋生態系の一部(食動物の餌場、葉上動物の生活の場、魚類の産卵場・稚仔魚期の生育の場)として重要な働きをしています。しかし、伊勢湾のアマモ場は、1960-1970年の調査で1万haあったものが、2000-2010年では、99%が破壊され100haとなっていました。今、三重県と連携しアマモ場再生の事業を行っています。